

# 社会的排除/包摂概念の検討

## 「生産性」に包摂される人びと

立正大学大学院 石田裕美子

### 1.目的

日本においては、2000年に厚生省社会・援護局企画課『社会的な援護を要する人びとに対する社会福祉のあり方に関する検討会報告書』内において、ホームレス問題や路上死、外国人・残留孤児等の問題を福祉における「社会的排除や摩擦」の問題として取り上げている。この『報告書』によると、従来の貧困からの脱出という福祉制度から漏れやすく、「見えにくい」とされている人びとに対する福祉的支援の必要性が確認された。このように、近年、日本の政策でも「社会的排除(social exclusion)」という概念が貧困のとらえ方として論じる動きがみられる。

しかし、「社会的排除」とは単に経済的貧困に付随する問題ではなく、つながりや連帯、つまり包摂された社会の構想を理念とする時に、障害となるものとして把握されている。以下では、主としてヨーロッパにおける社会的排除/包摂の概念を検討し、主として貧困の問題として認識されている社会的排除が、まったく別の問題として把握されていることを確認したい。

### 2.方法

1974年に、R.Lenoirは『排除された人びと——フランス人に10人に1人』において、「精神的及び身体障害者、自殺経験者、高齢者、虐待された子供、薬物中毒者、非行者、ひとり親、複数の問題を抱えた家庭、社会の周辺に位置付けられた人、非社会的人物などの社会的に『適合していない』人びと」は社会から排除されていると指摘した。同時期に、1970年代後半からの経済不安により、1980年代以降のフランスは、社会的に統合されていた人びとが容易に以前の地位から剥奪されるような状態を、「新しい貧困」として社会的な課題に据えていった (Bhalla & Lapeyre, 2004=2005:3-5)。

報告では、「社会の周縁に位置付けられた人びと」と「新しい貧困」の接続がどのように行われているのかを海外の文献をもとに検討する。

### 3.結論

従来、経済的貧困が政策上の問題として重要であったが、社会的排除/包摂は経済的貧困だけでなく、個人がいかにして「moral and political community」(O'Brien and Penna, 2005)に組み込まれているか、その程度を問題とする。つまり社会的排除とは、教育や雇用といった社会的な援助枠組みへのアクセスだけではなく、社会統合が主要な社会問題となっているのである。社会的包摂とは、労働による連帯を指し、社会的排除とは社会参加の機会論ではなく、労働者の資格論として議論されている。

以上のように整理をすれば、社会的排除という概念でまとめられている福祉の対象者が、「生産性の欠如」というラベルを貼られていることは明らかである。

Bhalla, Ajit S. and Lapeyre, Frédéric(2004)Poverty and exclusion in a global World,Palgrave Macmillan,Basingstoke. (=2005、福原宏幸・中村健吾訳『グローバル化と社会的排除：貧困と社会問題への新しいアプローチ』昭和堂。)

Lenoir,R(1974) Les exclus , Editions du Seuil.

O' Brien and Penne(2008)Social exclusion in Europe: some conceptual issues,International Journal of Social Welfare, 17 (1) :pp.84-92